社会福祉学部　社会福祉学科
15FF1572　京近涼平

SL を終えて自分が得たもの

1. 私が夏休みのサービス・ラーニングは、障害者支援と同時に、化石燃料を使わずに食物を育てるところの「NPO びすた～り」である。

2. そこで私は、社会で必要とされる「協調性」を伸ばすために、農作業を通して皆と協力して活動することを目標にして、グループと農作業を取り組んでいった。
こちらでは、六日間に小さな道路の整備・稲架を分解し別の田んぼへ持っていき、それを組み立てる作業・畑の除草作業・作物を収穫し、それを障害のある方とごちそうする交流会を行い、そして最終日にはお米の収穫を行った。その結果私は、農作業を行うことによって、社会性・協調性・人と関わることの大切さ、そして「農作業の障害のある方にとっても、良い訓練の一つでもある」ことであるのだなと感じることが出来た。
しかしここは、全てではないが、作業を終えるのに時間がかかりすぎてしまったこと・最終日に自分のミスでグループ全体が、約束の時間に遅れてしまったこと、そして個人的なことを述べれば、私自身が何らかの事情で泣いてしまったことが、課題に残ってしまったので、私は、「皆で作業する場合も、丁寧にテキパキと取り組むことと、時間に遅れてしまって皆に迷惑をかけないようにしなければならないな」と思い、また現場に行き何らかの作業をする機会が出来たら気をつけようと思った。

3. ここで変わるが、後期は発達障害の一つとして挙げられる「自閉症」について学んでみた。そこで前期のフィールドワークとは別のグループの仲間とともに、自閉症について研究してみた。そこでは、自閉症の症状の特徴・具体的な支援方法・時期によってどのような症状があらわれるのか、自閉症の方を支援するには何が有力なのかを皆で調べ上げたとき、『自閉症の子を支援するのに有力なのは「信頼関係」』と分かったときは、フィールドワーク先であった「NPO びすた～り」でも障害のある方とそうでない方との信頼関係があるからこそ、農作業も障害のある方に対して最適な作業の一つとして挙げられることと、五日目の交流会でも和気あいあいと出来たのかなと推測出来た。もし自閉症のある方とそうでない方・そして支援者との間に「信頼関係」がなければ、おそらく支援は出来ないと思うことと、支援者の思う「信頼・支援」と障害者の思う「信頼・支援」は違うと思うことと私は思う。
夏の活動で分かったことは、「農業と障害のある方の関係性」・「農業も障害のある方に向いている作業の一つであること」・「食材を育てることは大変であり、農家の人に改めて感謝しなければならないな」という気持ち・「皆で協力する協調性の大切さ」であり、社会に出てからもこのようなことが大切なんだということが分かった。

社会福祉学部　社会福祉学科
15FF1572　京近涼平

4. 以上でこのサービスラーニングが私に「協調性の大切さ」・「感謝の気持ちを忘れてはいけない」ということが分かることが出来ただけでも自分自身の成長に繋がったのかなと思った。この二つがこれからの自分にどのように生かせるかは分からないが、これらが社会に求められるのであるならば、今後にもし集団行動などをするときがきたら活かしていきたいことと、普段でも感謝の気持ちを忘れないようにしたいと思う。

SL を通して見つめなおす障害者に対する考え方

社会福祉学部社会福祉学科 2 年　中廣勇作

私は今までのサービスラーニングの授業を通してボランティア活動や奉仕活動の中で地域社会のニーズに貢献する大切さやそこでのたくさんの気づきから学びを深められたと感じている。授業で学んだことを生かして地域に実際に出て実践することでより学びを深め、そこでの社会の問題についても考えることが大切である。私も活動全体を通して相手を思いやる気持ちが大前提にないと行動に移すことは難しいと感じる。またそこで発見した課題や問題点を自分自身の頭でしっかりと考えることが重要だと感じる。

私は活動先として NPO 法人びすた～りへ体験をさせてもらい、そこでは主に精神障害者の方が生活しておられる。びすた～りでは自然栽培に力を入れて 1～2 名ほど精神障害者の方も働いており社会への自立を目指し活動している。

NPO 法人びすた～りでの体験は地域の人が使う山道の整備や草取り、稲刈など体を使う作業が多く疲労もしたが、それと同時に達成感も大きかったと感じている。自然栽培では農薬を使わないので人間の手で草を抜いたり、ヤギを二頭飼っていて食料に草を食べるのを利用している。また酢を水で薄めて野菜に無害な虫よけ対策をするなど自然栽培は普通に農薬を使って栽培するよりも知恵や工夫が必要である。たくさんの手間をかける結果、その野菜を求めて地域の人が買いに来られたり、農地を見学に来られる方もいて地域の中で重要な場所なのだと感じる場面があったのを覚えている。

施設の方と自然栽培で育てた野菜を使ったバーベキューをしたり、稲刈りを手作業で一緒に行ったりして触れ合うことができたのも良い経験である。びすた～りで活動を体験する前までは、精神障害者の方とうまくコミュニケーションが取れるのか不安で自分自身まず何をきっかけに会話をしていけばよいのかも分からない状況だったが、交流を通して精神障害者に対する考え方や見方が変わったのが一番の収穫である。

精神障害者の方と交流してまず最初に感じた事は普通の一般の方とあまり変わりがないということである。症状の重さにもよると思うが施設の方は気さくな方が多く向こうから声をかけてくださったりみんなで会話をして笑ったり、普通の人とあまり変わらないのである。自分の中で少なからず偏見もあったがそんなものは必要なく一般の人達と変わりな

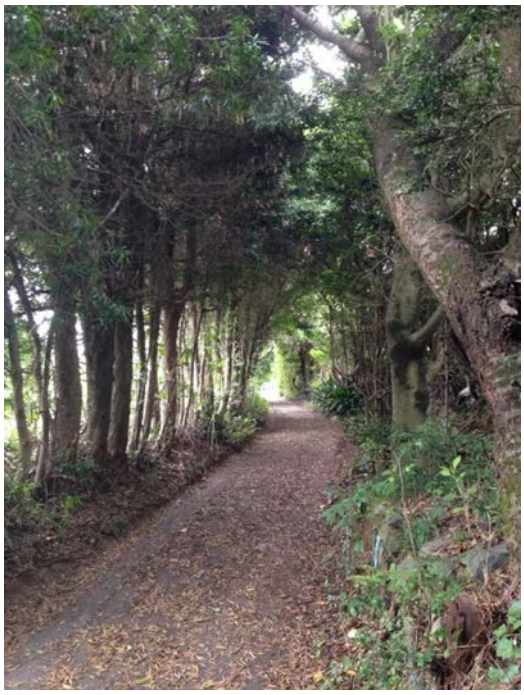
く接することが一番だと私は考える。また、学校で教わってそのままではなく実際にコミュニケーションをとり関わることで講義だけでは分からない新たな発見や気づきがあると実感している。

私はサービスラーニングを通して講義だけでは分からないことがまだまだあるなと感じる。例え座学で学んだつもりでも実際にそのような場面になるともっといろんなことが分かると実感したからである。今回の NPO 法人びすた～りで体験させてもらったように新たな発見がたくさんあり、これからの経験にしていきたいと考える。精神障害者の方に限らず障害を持っているからとすぐ施設で暮らすといった考えやコミュニケーションが取れないという考えをせず、社会で自立して生きていける希望がまだまだあると私は考える。そして自分にもあったように社会にはまだ障害者に対して偏見や固定概念があると思う。この考えを変えていくためにも私自身今回の経験を生かしてこれからの学びに力を入れていきたいと思っている。

人と関わることの大切さ
～びすたーりで経験したことを活かして～

15FF3214 墓越　祐希

私はサービスラーニングで「NPO 法人びすたーり」で実習をおこなった。NPO 法人びすたーりは、精神障害や発達障害を抱えている方々が働いている。この場所には、「ふるぼ」という事務所と「びすたーり農園」という盛大な農園がある。精神障害の方や発達障害の方は、しゃがんだりするという行為が苦手であるため、主に事務所である「ふるぼ」で仕事をしている。「びすたーり農園」は、農薬や肥料を一切使わない自然栽培を重視して野菜を作っている。また、「ヨシコ」と「アヤコ」という名前の可愛いらしいヤギもいる。この、「ヨシコ」と「アヤコ」という名前は、実在の人間の双子からとった名前だそうだ。そして、担当の方は高山京子先生で、日本福祉大学の先生としても働いている。私たちはそんな中で実習をおこなった。



一日目の実習は、山道の整備をおこなった。この山道は、地域の方々がよく通る道であり、木が多く、木陰が非常に気持ちいい道となっている。去年の実習にきた先輩方がこの山道をきれいにしたのだが、一年たってしまったら、あっという間に森のようになってしまっていた。私たちは、地域の方々のためにもやるしかないと思った。しかし、山道の整備をしたことがない私たちには、非常に厳しい作業となった。とにかく山道には、虫が多くいた。虫よけスプレーがないと、とても作業をすることはできない。私たちは、なれないカマなどを使い、木を切り落としたり、落ち葉を集めたりした。なんとか丸一日かけて、山道の整備は完了した。この横にある写真は私たちが整備をした山道である。高山先生は、代表である旦那さんと農業をしているが、こんなに大変なことを二人でやっているのかと思うと、本当にすごいとて実感させられる一日であった。

二日目は、稲を刈ったあと、干すのに使う「稲架」というものを作った。以前までは、びすたーり農園の敷地内に田んぼがあったのだが、新しい田んぼを取得したため、そちらの田んぼに作ってある稲架を一度解体して、一キロ先にある新しい田んぼまでもっていき、そこで稲架をまた組み立てるという内容だった。この作業もまた非常に大変なもので

あった。時期は真夏の暑い中。私たちは、虫刺されと日焼けの予防のため、長袖長ズボンをはいていた。しかも稲架を解体した鉄パイプは何キロもあり、それを一キロ先にある田んぼまで運んだ。解体した鉄パイプは何本もあるため、合計三往復した。そして、全て運び終わった鉄パイプを稲架になるように組み立てていった。しかし、思うような形ができずに、作業が途中のまま二日目を終了した。

三日目は、昨日終ることができなかった稲架づくりの続きをした。稲架を組み立てるのは、一人では絶対にできない作業である。ここで私たち全員は協力して、無事稲架を組み立てることができた。みんなで協力して、なにかをつくりあげることとは、こんなに感動するものであると改めて実感することができた。

三日目の昼からと四日目は、農業体験をさせていただいた。まずは畑の周りの草を抜いていき、地面の感想を防ぐためその周りに藁を撒いていった。そして私たちは野菜の収穫をさせていただいた。ナスやオクラなどを収穫したが、どれも大きく実がしっかりしていた。自然栽培なため、安全で新鮮な野菜を収穫することができた。また、畑を耕す機械も使わせていただき、新しく野菜を作る予定の畑をみんなで耕していった。四日目の終わりがけには、「ヨシコ」と「アヤコ」の散歩もさせていただいた。ヤギは引っ張る力が強く、散歩するのがなかなか大変であったが、貴重な体験をさせていただいた。

そして、五日目には、ここで働いている障害を持つ方々と一緒にバーベキューをした。昨日自分たちで収穫した野菜を自分たちで調理して、焼きそばを作った。自分たちで作る、焼きそばは格段においしかった。障害をもつ方々も明るくて、面白くて楽しい時間を過ごさせていただいた。

最終日は稲刈りの手伝いをするため、サービスラーニングの期間とは別の日におこなった。ここで初めて障害をもつ方々と一緒に作業をおこなった。稲刈りは非常に大変な作業であったが、なかなか体験できないことなので、一生懸命稲を刈った。障害をもつ方々と一緒に作業をおこなってみて思ったことは、普通の人とあまり変わらないと思った。健常者と比べることはよくないことだが、どこに障害があるのか聞かないとわからないくらい普通の人だった。また、障害者とは関わりづらいという偏見を持っている人もいるが、積極的に話しかけていたら心を開いてくれて、コミュニケーションをとることができた。ここで私は、人と関わることの大切さを実感することができた。これからは、びすたーりで実習させていただいたことを活かして、日々成長していきたいと思う。

「SL」の活動と成果

社会福祉学科社会福祉学部　2 年　15ff4030　宮川　直樹

１　サービスランニングを通じて「成長できたこと」「気づいたこと」経験を通じて NPO 法人の役割や需要と点で多くの発見ができたと感じる。今まで学習してきた中で自分自身 NPO 法人というものあまり深く理解しておらずその NPO 法人がその地域にどういったことをしているのか、社会にどのようなことをしているのか知らなかった。私は、NPO 法人びすた～りという障害者施設に活動に行ってきた。活動内容として農作業を障害者の利用者さんと一緒にして収穫して社会貢献するといったこと。農作業だけではなく、道の整備、木の伐採などもした。今まで農作業といったことはしたことがなかったが、畑の耕し、稲刈り、工具の組み立てなど農作業を一通り体験して普段見えてなかったものが見えた。成長できたこととして私たちは６日間、福祉体験ではなく利用者さんと農業を体験するということをしたが「利用者さんに対する価値観」という部分に成長を感じることができた。サービスランニングでいった施設ではいろいろな障害を持った利用者さんがいた。自閉症、アスペルガー症候群、多重人格といった利用者さんがいたが、私自身今まで社会的弱者とされる障害者に対して差別意識や偏見を少なからず持っており少しでも障害と聞くと抵抗することがあった。そんな偏見をもってこのサービスランニングにいったが、活動先の利用者さんと接する機会があり「価値観」という部分では成長したと思う。特に多重人格という障害は今まで近くでみたことがなく最初の方は偏見で怖いというのがあったが一緒に活動するなかで普通の人と変わらないと思うようになった。「障害」というだけで人とは違う、なにをするかわからないといった偏見があることはしょうがないことだが触れ合ってみることで自分たちとなにも変わらない、表す表現が違うだけと感じるように」なった。そういった活動から障害者に対する「価値観」という部分が成長できたと思う。次に気づいたこととして地域貢献の大切さという点で気づきを感じた。活動の中で歩道の整備を行い地域の方が通行しやすくなったのをみて、重要なことだと感じた。活動前は車が通るのにも困難であったり歩行するのにも危ないといった現状だったが活動先のグループで時間をかけて整備することができた。施設は地域の協力あって運営ができており地域にそういった貢献をすることが大事だと思った。サービスランニングを通じて実際の現場をみて実践することは大きな経験になったと思うし NPO がどういったものなのか理解することができた。また、障害者の方とはじめて接する機会でもあり感じるものがおおくあったサービスランニングであったと思う。

２　活動を通して、NPO 法人びすた～りが利用者さんと農業をしてそれを収穫して売り社会と関わっていることが活動を通して理解できた。地域の課題として、施設近辺自然が多く農業はしやすいが住人が少ないといった課題がある。環境のことはどうにもできる問題ではないが地域住民の協力といったことはできると思う。NPO 法人がその地域の住民に地域で支えると同じように地域住人も NPO 法人を支援するといったことが大事だと思った。ま

た、地域住人だけではなくその地域における NPO 法人同士で協力していくことが大事なことだと考えている。その NPO 法人が支え合うことでその地域も変わっていき地域活性化にも繋がると私は思う。自分が住んでいる NPO 法人がどういったことをしているのかアピールしていくことも大事だと考える。地域問題が多くあるなかで地域の中でコミュニケーションをとり支え合って問題と向き合うことが良いと思った。私も、住んでいる地域問題を把握して問題解決を考えるようにやっていきたいと思った。最後に、NPO 法人が地域住民から信頼される存在になることが一番大切だと思った。

サービスラーニングのまとめ

15ff4196　森田隆平

１

　私はこの四月から成長したものは自分の悪い部分や一つ一つの講義をしっかり振り返るようになったのである。なぜならリフレクションシートをしっかり書くくようになったからである。リフレクションシートを書くことにより自分がその講義で何を学び何を学ぶことができたかもう一度振り返ることができるからである。そして私が成長したことはサービスラーニングでびすた～りに行かしてもらったのである。そして講義では学ぶことができないようなことを学ぶことができたのである。大学にいても障害のもった人と関わることができないのだ。だが実習に行かしていただいたことによってさまざまな障害を持った人と関わることができたのである。このような貴重な経験はとても自分のためになったのだ。やはり、体験してみなくてはわからないものはたくさんあると感じたのだ。また
サービスラーニングの終了した後に合同ゼミで自分たちがサービスラーニングで学んだことを皆の前で発表する機会もあったのだ。発表ではサービスラーニングで学んだことをもっと深く調べて発表をしたのである。そのため、自分たちでサービスラーニングではわからなかったことを話し合って皆でたくさんの意見を言い合うこともできたのだ。そのことで他人の考え方などを共有しあうこともでき、自分の意見以外にもたくさんの知識を得ることもでき、発表という皆の前で話をする力も付いたのだ。このような経験はわたしたちが大人になった時に使う機会が少ないかもしれないがもし自分に回ってきたときに経験していることによって自分が経験を活かしリーダーとなりこの経験が生きるのだ。就活の面接でも皆の前で話をしている経験をしていることによって堂々と話をすることができると感じたのだ。また、成長とは目に見えるものではない。何もしなければ何も成長はしない。だが、何か失敗してもその失敗は成長である。なぜなら、失敗は成功の基というように一番最初から何もかもがすべて完璧な人などいない、失敗してその失敗を次はしないと思えて治すことによって失敗が成功になるのだ。今年は失敗も多かったがその失敗をそのまま受け流さず私はその失敗を成功に帰ることができ成長することができたのだ。

２

　私が活動を通して見えてきた地域や市民活動の現状や課題は障害のある人の就職の問題だ。私はサービスラーニングでびすたーりで活動させていただいた。だがびすた～りの高山さんなどの話を聞いてやはり雇ってもらえる企業は少ないのだ。だから、びすた～りは障害のある人を雇ったり田植えや農業に参加できるような環境を作りそこで学んだものをびすた～りではなく違う場所で働き社会に出て仕事ができるように頑張っているのだ。そして、障がい者だからという偏見を無くそうとしているのだ。だが障がい者の給料が少ないのも現実だ。また精神障害の方だと例えば代表的なのはうつ病、躁鬱病、統合失調症など

です。この中では、うつ病の人で、症状が比較的軽い人は、十分に働くことも可能である。もちろん薬を飲みながらですが、この人たちは障害年金も申請しても恐らく該当しないで落とされるので、自分達の力で生きているのだ。躁鬱病、統合失調症、になると、まず８～９割の人は一般就労できないのだ。というか、就労できるかできないかというレベルより、精神病院に入院するかしないか、自宅で普通の日常生活を送れるか送れないか、そのレベルで病気と闘ってる人が大半である。比較的症状が軽い人は、作業所などに行き、福祉的就労をするん。ここでの賃金は、頑張れば月１万円越すか越さないか、その程度だ。まあ作業所にも色々なタイプがあって、一番一般就労に近いタイプの作業所だと月に４，５万円稼げますけど、そういうところで働ける人は普通の職場でもそれなりに働ける人です。仮に作業所での賃金が月 1 万円でそれ＋障害年金を受給してるとします。精神障害者が受給してる障害年金はかなり多くの人が、障害年金基礎 2 級というもので、これは 2 ヶ月に 1 回 13 万円ちょっと振り込まれます。障害があろうと人間は人間だ。